

「世界の北海道」を目指して
—北海道総合開発計画—

報道機関各位

令和元年8月5日
室蘭開発建設部 広報官世界と日本と地方、ミュージアムで
解決できる地域の課題を事例から考える

～国際シンポジウム「歴史文化をまもる、つなぐ地方博物館の挑戦」の一般参加者を募集～

室蘭開発建設部、伊達市、洞爺湖町など13団体で構成する「伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム」は、国際シンポジウム「歴史文化をまもる、つなぐ地方博物館の挑戦」を下記のとおり開催します。

このシンポジウムは、日本で初めて開催される「国際博物館会議京都大会（ICOM KYOTO 2019）」（9月1～7日）の関連イベント「ICOM KYOTO 2019 ポストカンファレンスin北海道」のメインプログラムとなっており、ICOM（国際博物館会議）会長をはじめ、ICOM国際委員会の委員長やメンバーもお招きして、博物館を活用したまちづくりについて考えます。（日英同時通訳あり）

また、開催地である伊達市は、今年150年の節目を迎え、4月には「だて歴史文化ミュージアム」もオープンしました。シンポジウムでは、来年北海道に初めて設立される国立博物館と地方博物館の地域連携による相乗効果の可能性も探っていきます。

地方で働く博物館関係者と海外の博物館関係者の交流促進の場としてだけでなく、広く一般市民の方にもご参加いただき、世界からの事例をもとに博物館を活用した持続可能なまちづくりに役立つよい機会となります。

※ 国際博物館会議（ICOM：International Council of Museums）

ミュージアムの進歩発展を目的とした世界で唯一かつ最大の国際的非政府組織で、世界141の国と地域のミュージアム関係者が加入（2016年現在）。

ICOM KYOTO2019公式ウェブサイト：<http://icom-kyoto-2019.org/jp/index.html>

記

国際シンポジウム「歴史文化をまもる、つなぐ地方博物館の挑戦」

【日時】9月9日（月）13:30～17:30

【場所】だて歴史の杜カルチャーセンター 大ホール（伊達市松ヶ枝町34番地1）

【主催】ICOM 京都大会2019 組織委員会、伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム

【主管】ICOM 京都大会2019 ポストカンファレンス in 北海道・伊達洞爺湖実行委員会

【内容】別紙のとおり

【参加料】無料（事前の申込が必要です）

○詳細は別紙またはウェブサイトをご覧ください。

<https://www.ec-pro.co.jp/icomkyoto2019postconference/ja/index.html>

【問合せ先】 伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム事務局

室蘭開発建設部 地域振興対策室 電話 0143-25-7053（直通）

地域振興対策官 石井智之

上席地域振興専門官 宮本洋光

室蘭開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/mr/>



ICOM KYOTO 2019
KYOTO 2019 ポストカンファレンス in 北海道

#ミュージアムで

#まちづくり

#地域の宝を

#未来につなぐ

世界と日本と地方、
ミュージアムで解決できる地域の課題を事例から考える。

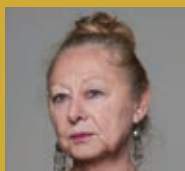
伊達150年

国際シンポジウム

「歴史文化をまもる、つなぐ地方博物館の挑戦」



スアイ・アクノイ 氏



ミアム・モレル= デルダール氏



イリナ・ジュモツ 氏



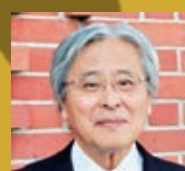
佐々木 利和 氏



坂本 昇 氏



石川 直章 氏



石森 秀三 氏

- 主催 ICOM京都大会2019組織委員会、伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム
- 主管 ICOM京都大会2019ポストカンファレンスin北海道・伊達洞爺湖実行委員会
- 共催 北海道博物館協会、日本ミュージアム・マネージメント学会
- 後援 国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部、国土交通省北海道運輸局室蘭運輸支局、北海道胆振総合振興局、伊達市、伊達市教育委員会、洞爺湖町、洞爺湖町教育委員会、平取町教育委員会、NPO法人だて観光協会、洞爺湖温泉観光協会、伊達商工会議所、洞爺湖町商工会、伊達信用金庫、北の縄文道民会議、北海道中央バス(株)、(株)シービーツアーズ

9月9日月

13:30-17:30 (13時開場)

だて歴史の杜カルチャーセンター

(北海道伊達市松ヶ枝町34番地1)

入場無料・事前申込(裏面をご覧ください)

日英同時通訳あり



#観光

#世界遺産

#文化財活用

#SDGs

#縄文

#土偶

#サムライ

ICOMとは？

ICOM(International Council of Museums:国際博物館会議)は、1946年に創設された国際的な非政府機関です。世界141カ国(地域を含む)から約3万7千人の博物館専門家が参加しています。地球規模で博物館と博物館専門家を代表する団体として、UNESCOと協力関係をもち、国連では経済社会理事会の諮問資格を有しています。ICOMには、博物館の様々な専門分野に即して組織された30のInternational Committees(国際委員会)があります。

今年9月に京都で日本初のICOMの世界大会ICOM KYOTO 2019が開催されます。今回の国際シンポジウムはICOM KYOTO 2019の関連イベントと位置づけ、ICR(地方博物館国際委員会)、ICMAH(考古学・歴史の博物館・コレクション国際委員会)、ICME(民族学の博物館・コレクション国際委員会)のメンバーがシンポジウムに参加します。

なぜ伊達市で開催？

亘理伊達家による武士の入植から数えて150年、本年4月3日に伊達市に「だて歴史文化ミュージアム」がオープンしました。伊達市は「北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録」を目指す北黄金貝塚、アイヌ民族、そして武士によってもたらされた歴史文化背景をもつまちです。また、隣接する洞爺湖町も入江・高砂貝塚を有し、この地域には縄文から続くその豊かな風土に根差した文化を展示する地方博物館があります。

日本一新しい地方博物館の開館※と伊達150年を記念して、ICOM KYOTO 2019のテーマである“Museums as Cultural Hubs: The Future of Tradition”(文化をつなぐミュージアムー伝統を未来へ)を地方に転換した国際シンポジウムを開催します。北海道の研究者とICOM研究者の交流促進の場としてだけでなく、広く市民の方にもご参加いただき、世界からの事例をもとに博物館を活用した持続可能なまちづくりに役立てる機会となります。※ICOM KYOTO2019開催時点

プログラム

13:00

受付開始

13:30

開会

主催者挨拶

歓迎挨拶

来賓挨拶(スアイ・アクソイ氏 ICOM会長)

13:40

基調講演1「私の見てきた地方博物館(仮)」

イリナ・ジュモツ氏 ICR(地方博物館国際委員会)委員長

14:20

コーヒーブレイク

14:30

基調講演2「考古遺跡と博物館について(仮)」

ミリアム・モレル＝ デウルダール氏 ICMAH(考古学・歴史の博物館・コレクション国際委員会)委員長

15:10

特別講演「この地に造る博物館の試み(仮)」

佐々木 利和氏 北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授

15:50

コーヒーブレイク

16:00

パネルディスカッション「地域の宝をつなぐ博物館の役割」

博物館の持続可能性と目指すべき姿～地域の歴史文化を守り、将来へ繋ぐ～を軸に運営、集客そして研究・保存と活用の在り方について、地方博物館の課題を討論します。また、北海道に初めて設立される国立博物館と地方博物館の地域連携による相乗効果の可能性も探ります。

●モデレーター

石森 秀三氏 北海道博物館協会会長・伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム委員長

●パネリスト

イリナ・ジュモツ氏 ICR(地方博物館国際委員会)委員長

ミリアム・モレル＝ デウルダール氏 ICMAH(考古学・歴史の博物館・コレクション国際委員会)委員長

佐々木 利和氏 北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授

坂本 昇氏 伊丹市昆虫館副館長

石川 直章氏 小樽市総合博物館館長

17:30

閉会

出演者プロフィール

佐々木 利和氏

北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授

1979年法政大学大学院修了。東京国立博物館学芸部資料課民族資料室長、文化庁文化財部美術学芸課主任文化財調査官、国立民族学博物館先端人類科学研究部教授を歴任し、2010年から日本政府アイヌ政策推進会議委員の一員。2019年3月までだて歴史文化ミュージアム検討委員会委員長。

スアイ・アクソイ氏
国際博物館会議(ICOM)会長

専門は、博物館マネジメント及び文化遺産。これまでICOM諮問委員会の委員長、都市博物館のコレクション・活動 国際委員会(CAMOC)の委員長を歴任。また、トルコ博物館専門家協会の創立、トルコ歴史財団の博物館プロジェクトを推進し、役員や理事を歴任。「2010年欧州文化首都イスタンブール」で、トルコにおける博物館再生モデルの提案など主要プロジェクトを牽引した。「経済学」学士、「政治学」修士、「博物館学」修士取得。

坂本 昇氏
伊丹市昆虫館副館長

伊丹市昆虫館学芸員(副館長)。大阪教育大学大学院教育学研究科中途退学。伊丹市昆虫館では教育担当学芸員として昆虫飼育をはじめ、教育系各種事業や友の会立ち上げ、企画展、地域との連携事業「鳴く虫と郷町」などを担当。日本博物館協会橋樑賞、日本展示学会作品賞・論文賞を受賞。

イリナ・ジュモツ氏
ICR(地方博物館国際委員会)委員長

1979年リュブリャナ大学文学部卒業、同大学より博士号取得(歴史学)。1991年よりICOM/ICR委員。1980年よりリュブリャナの博物館及びキャリアーでキュレーターとして活動。専門職名は博物館鑑査官。関心分野は近世史(1500年～1850年)。

石川 直章氏
小樽市総合博物館館長

専門は考古学および文化史学。同志社大学大学院博士課程後期単位満了中退。文学修士(同志社大学)。同志社大学校地学術調査委員会調査員、同志社大学文学部講師、財団法人徳島県埋蔵文化財センター研究員、小樽市教育委員会社会教育課学芸員を経て現職。2013年に日本博物館協会活動奨励賞を受賞。北海道博物館協会副会長、北海道考古学会副委員長。

ミリアム・モレル＝ デウルダール氏
ICMAH(考古学・歴史の博物館・コレクション国際委員会)委員長

歴史・考古学者。チュニス(チュニジア大学)で課程修了後、パリ第1大学(ソルボンヌ大学)より博士号取得(1971年)。チーフキュレーター(2018年)としてフランス・マルセイユの欧州・地中海文明博物館で複数の展覧会(Splendeurs de Volubilis、Migrations divines、Galerie de la Méditerranée/Connectivités 及びL'or)を監修。

石森 秀三氏
北海道博物館協会会長・
伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム委員長

国立民族学博物館教授(文化資源研究センター長)、総合研究大学院大学教授、北海道大学大学院観光創造専攻教授などを経て、現在、北海道博物館長、北海道大学観光学高等研究センター特別招聘教授。北海道遺産協議会の会長を務める。文化観光の振興によって文化庁長官表彰を受ける。

お申し込み方法

公式WEBサイトにある専用申込フォームからお申込みください。

https://www.ec-pro.co.jp/icomkyoto2019postconference/ja/registration_sympo.html

お問合せ

ICOM京都大会2019ポストカンファレンス in

北海道・伊達洞爺湖実行委員会プログラム事務局 [代行(株)イー・シー・プロ]

TEL.011-299-5910 icom2019post@ec-pro.co.jp



TOSHIBA



このポストカンファレンスは伊藤組100年記念基金、東芝国際交流財団、公益財団法人北海道市町村振興協会(サマージャンボ宝くじの収益金)、公益信託北海道国際交流基金、一般財団法人北海道開発協会の助成を受けています。